

- ・ Apple iPad
- ・ Google Jamboard

<単元・題材名等>

表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう
『鳥獣戯画』を読む・日本文化を発信しよう

ねらい

筆者が自分の見方を読者に伝えるために、論の展開、表現の工夫、絵の示し方を工夫していることに気づき、その効果について考えることができる。

主なICTの活用方法

- ・ 筆者の工夫が感じられる叙述を、Google Jamboard の付箋に記入する。
- ・ グループ交流では、Google Jamboard を活用し、工夫された叙述と効果を整理する。

ICT通じて育成する資質・能力

- ・ グループ交流において、Google Jamboard を活用することで、様々な叙述を基に、筆者が自分の考えをより適切に伝えるために、どのような工夫をしているのかを考えることができる。

実践の概要

本単元は、『鳥獣戯画』を読むで、自分の見方を読者に伝えるための様々な工夫について読み取り、「日本文化を発信しよう」で、より読者を意識した説明文を書くことを求める。そこで、『鳥獣戯画』を読むをより目的的に読み進めることができるよう、単元導入で「日本のパンフレットを作ること」を提示する。また、ジブリ作品に携わってきた筆者であることを伝え、説明の仕方を読み取る意欲を高めていく。本時の導入では、筆者が読者に対してどのような説明の工夫をしているのか、「論の展開」「表現の工夫」「絵の示し方」を視点として提示する。個人追及では、Google Jamboard に、それぞれが工夫として考えられる叙述と効果を付箋に記入する。その後、グループ交流では、仲間の考えを確かめながら、共通する考えを整理していく。終末のふりかえりでは、交流で扱った叙述を確認しながら、教材文を再度読み返すことで、筆者が読者に考えを伝えるために様々な工夫をしていることを実感することができるようにする。

児童の学びの様子

- 教材文を何度も読み返しなが、工夫として感じられる叙述を見つけ、Google Jamboard の付箋に、意欲的に記入する姿が見られた。
- Google Jamboard の付箋を動かすことで、「この叙述とこの叙述は、読者に興味を引き付けることとしては共通する」など、考えを整理して交流する姿がみられた。
- グループ交流の結果を、全体に発表する際には、大型モニターに示し、ピンチイン・ピンチアウトや文字の書き込みなどを、児童が自主的に行い、焦点的で分かりやすい説明をする姿がみられた。



指導のポイント

- Google Jamboard を活用することで、様々な叙述を基に筆者の工夫と効果を考えることができる。
- Google Jamboard の付箋を自由に動かしたり、自由に記入したりすることができるため、考えの共通点や相違点を考えながら、仲間とともに筆者の工夫を読み取ることができる。